

## 医師として研鑽していくことが求められる資質・能力

### PR: プロフェッショナリズム (Professionalism)

人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し、多様性・人間性を尊重し、利他的な態度で診療にあたりながら、医師としての道を究めていく。

### GE: 総合的に患者・生活者をみる姿勢 (General)

患者の抱える問題を臓器横断的に捉えた上で、心理社会的背景も踏まえ、ニーズに応じて柔軟に自身の専門領域にとどまらずに診療を行い、個人と社会のウェルビーイングを実現する。

### LL: 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 (Lifelong Learning)

安全で質の高い医療を実践するために絶えず省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、生涯にわたって自律的に学び続け、積極的に教育に携わっていく。

### RE: 科学的探究 (Research)

医学・医療の発展のための医学研究の重要性を理解し、科学的思考を身に付けながら、学術・研究活動に関与して医学を創造する。

### PS: 専門知識に基づいた問題解決能力 (Problem Solving)

医学・医療の発展のための研究の重要性を理解し、科学的思考を身につけ、学術・研究活動に関与し、学問を創造する。

### IT: 情報・科学技術を活かす能力 (Information Technology)

発展し続ける情報化社会を理解し、人工知能等の情報・科学技術を活用しながら、医療・医学研究を実践する。

### CS: 患者ケアのための診療技能 (Clinical Skill)

患者の苦痛や不安感に配慮し、確実に信頼される診療技能を磨き、患者中心の診療を実践する。

### CM: コミュニケーション能力 (Communication)

患者及び患者に関わる人たちと、相手の状況を考慮した上で良好な関係性を築き、患者の意思決定を支援して、安全で質の高い医療を実践する。

### IP: 多職種連携能力 (Interprofessional)

保健、医療、福祉、介護など患者・家族に関わる全ての人々の役割を理解し、お互いに良好な関係を築きながら、患者・家族・地域の課題を共有し、関わる人々と協働することができる。

### SO: 社会における医療の役割の理解 (Society)

医療は社会の一部であるという認識を持ち、経済的な観点・地域性の視点・国際的な視野等も持ちながら、公正な医療を提供し、健康の代弁者として公衆衛生の向上に努める。

医学教育モデル・コア・カリキュラム (令和4年度改訂版) より

## 臨床実習の到達目標

### 1 学修目標

この学修目標は、「医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）第2章 学修目標」に記載され、全国の医学部で共通に使用しているものです。本学の診療科ごとに到達目標も設定されていますので、この学修目標と照らし合わせて、自分の学んだ／経験した内容を確認するために使用して下さい。また適宜、教員の先生にコメントをもらってください。

1：臨床実習開始前のレベル 2：臨床実習開始時のレベル 3：臨床実習中間時点で期待されるレベル 4：臨床実習終了時（卒業時）のレベル 5：臨床研修中間時点で期待されるレベル

PR	プロフェッショナリズム	自己評価					評価 機会 なし	指導者評価					評価 機会 なし
		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
<b>信頼：社会から信頼を得る上で必要なことを常に考え行動する。</b>													
	誠実さ	<input type="checkbox"/>											
	省察	<input type="checkbox"/>											
<b>思いやり：品格と礼儀を持って、他者を適切に理解し、思いやりを持って接する。</b>													
	思いやり	<input type="checkbox"/>											
	他者理解と自己理解	<input type="checkbox"/>											
	品格・礼儀	<input type="checkbox"/>											
<b>社会正義：社会的公正を実現する。</b>													
	医療資源の公平な分配	<input type="checkbox"/>											
<b>教養：医師に相応しい教養を身につける。</b>													
	教養	<input type="checkbox"/>											
<b>医の倫理：医療における倫理の重要性を学ぶ。</b>													
	医の倫理	<input type="checkbox"/>											

指導医のコメント

指導医のサイン

GE	総合的に患者・生活者をみる姿勢	自己評価					評価 機会 なし	指導者評価					評価 機会 なし
		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
<b>全人的な視点とアプローチ：</b> 患者の抱える問題を臓器横断的だけでなく心理・社会的視点で捉え、専門領域にとどまらない姿勢で責任をもって診療に関わり、最善の意思決定や行動科学に基づく臨床実践に関与できる。													
臓器横断的な診療		<input type="checkbox"/>											
生物・心理・社会的な問題への包括的な視点		<input type="checkbox"/>											
患者中心の医療		<input type="checkbox"/>											
根拠に基づいた医療<EBM>		<input type="checkbox"/>											
行動科学		<input type="checkbox"/>											
緩和ケア		<input type="checkbox"/>											
<b>地域の視点とアプローチ：</b> 地域の実情に応じた医療・介護・保健・福祉の現状及び課題を理解し、医療の基本としてのプライマリ・ケアの実践、ヘルスケアシステムの質の向上に貢献するための能力を獲得する。													
プライマリ・ケアにおける基本概念		<input type="checkbox"/>											
地域におけるプライマリ・ケア		<input type="checkbox"/>											
医療資源に応じたプライマリ・ケア		<input type="checkbox"/>											
在宅におけるプライマリ・ケア		<input type="checkbox"/>											
<b>人生の視点とアプローチ：</b> 患者・生活者の成長、発達、老化、死のプロセスを踏まえ、経時的に患者・家族・生活者に起こり得る精神・社会・医学的な問題に関与できる。													
人生のプロセス		<input type="checkbox"/>											
小児期全般		<input type="checkbox"/>											
胎児期・新生児期・乳幼児期		<input type="checkbox"/>											
学童期・思春期・青年期・成人期		<input type="checkbox"/>											
老年期		<input type="checkbox"/>											
終末期		<input type="checkbox"/>											
<b>社会の視点とアプローチ：</b> 文化的・社会的文脈のなかで生成される健康観や人々の言動・関係性を理解し、文化人類学・社会学（主に医療人類学・医療社会学）の視点から、それを臨床実践に活用できる。													
医学的・文化的・社会的文脈における健康		<input type="checkbox"/>											
社会科学		<input type="checkbox"/>											

GE	総合的に患者・生活者をみる姿勢	自己評価					評価 機会 なし	指導者評価					評価 機会 なし
		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
<b>全人的な視点とアプローチ：</b> 患者の抱える問題を臓器横断的だけでなく心理・社会的視点で捉え、専門領域にとどまらない姿勢で責任をもって診療に関わり、最善の意思決定や行動科学に基づく臨床実践に関与できる。													
臓器横断的な診療		<input type="checkbox"/>											
生物・心理・社会的な問題への包括的な視点		<input type="checkbox"/>											
患者中心の医療		<input type="checkbox"/>											
根拠に基づいた医療<EBM>		<input type="checkbox"/>											
行動科学		<input type="checkbox"/>											
緩和ケア		<input type="checkbox"/>											
<b>地域の視点とアプローチ：</b> 地域の実情に応じた医療・介護・保健・福祉の現状及び課題を理解し、医療の基本としてのプライマリ・ケアの実践、ヘルスケアシステムの質の向上に貢献するための能力を獲得する。													
プライマリ・ケアにおける基本概念		<input type="checkbox"/>											
地域におけるプライマリ・ケア		<input type="checkbox"/>											
医療資源に応じたプライマリ・ケア		<input type="checkbox"/>											
在宅におけるプライマリ・ケア		<input type="checkbox"/>											
<b>人生の視点とアプローチ：</b> 患者・生活者の成長、発達、老化、死のプロセスを踏まえ、経時的に患者・家族・生活者に起こり得る精神・社会・医学的な問題に関与できる。													
人生のプロセス		<input type="checkbox"/>											
小児期全般		<input type="checkbox"/>											
胎児期・新生児期・乳幼児期		<input type="checkbox"/>											
学童期・思春期・青年期・成人期		<input type="checkbox"/>											
老年期		<input type="checkbox"/>											
終末期		<input type="checkbox"/>											
<b>社会の視点とアプローチ：</b> 文化的・社会的文脈のなかで生成される健康観や人々の言動・関係性を理解し、文化人類学・社会学（主に医療人類学・医療社会学）の視点から、それを臨床実践に活用できる。													
医学的・文化的・社会的文脈における健康		<input type="checkbox"/>											
社会科学		<input type="checkbox"/>											

指導医のコメント

指導医のサイン

LL	生涯にわたって共に学ぶ姿勢	自己評価					評価 機会 なし	指導者評価					評価 機会 なし
		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
医療者教育：生涯学び続ける価値観を形成する。													
医療者教育の実践													
		<input type="checkbox"/>											
生涯学習：医師・医学生に限らず同僚や後輩を含む医療者への教育に貢献する。													
生涯学習の実践													
		<input type="checkbox"/>											
キャリア開発													
		<input type="checkbox"/>											

指導医のコメント

指導医のサイン

RE	科学的探究	自己評価					評価 機会 なし	指導者評価					評価 機会 なし
		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
	<b>リサーチマインド：知的好奇心を満たす喜びとオリジナリティの重要性を知る。</b>												
	能動的姿勢	<input type="checkbox"/>											
	探究心	<input type="checkbox"/>											
	<b>既知の知：先人の偉業を知り、新たな発想を育む。</b>												
	医学と医療	<input type="checkbox"/>											
	論文読解	<input type="checkbox"/>											
	<b>研究の実施：自然科学・人文社会科学の研究手法を体験し理解する。</b>												
	問い	<input type="checkbox"/>											
	研究計画	<input type="checkbox"/>											
	研究手法	<input type="checkbox"/>											
	研究結果	<input type="checkbox"/>											
	<b>研究の発信：研究の意義・内容を他者に説明し討論する。</b>												
	研究発表	<input type="checkbox"/>											
	<b>研究倫理：法令遵守ならびに人権尊重し、医学生として正しく行動する。</b>												
	適切な研究遂行	<input type="checkbox"/>											
	対象者の保護	<input type="checkbox"/>											

指導医のコメント

指導医のサイン

PS	専門知識に基づいた問題解決能力	自己評価					評価 機会 なし	指導者評価					評価 機会 なし
		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
<b>基礎医学：分子レベルから個体レベルまでの、生命現象、細胞から個体の構成と機能、個体の反応を理解し、その破綻による病因と病態を理解する。</b>													
	生命現象の科学	<input type="checkbox"/>											
	個体の構成と機能	<input type="checkbox"/>											
	個体の反応	<input type="checkbox"/>											
	病因と病態	<input type="checkbox"/>											
<b>人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療：人体各器官の構造と機能を理解し、主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療の知識を臨床的に使用できる。</b>													
	総論	<input type="checkbox"/>											
	血液・造血器・リンパ系	<input type="checkbox"/>											
	神経系	<input type="checkbox"/>											
	皮膚系	<input type="checkbox"/>											
	運動器（筋骨格）系	<input type="checkbox"/>											
	循環器系	<input type="checkbox"/>											
	呼吸器系	<input type="checkbox"/>											
	消化器系	<input type="checkbox"/>											
	腎・尿路系（体液・電解質バランスを含む）	<input type="checkbox"/>											
	生殖器系	<input type="checkbox"/>											
	妊娠と分娩	<input type="checkbox"/>											
	小児	<input type="checkbox"/>											
	乳房	<input type="checkbox"/>											
	内分泌・栄養・代謝系	<input type="checkbox"/>											
	眼・視覚系	<input type="checkbox"/>											
	耳鼻・咽喉・口腔系	<input type="checkbox"/>											
	精神系	<input type="checkbox"/>											
<b>全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療：器官横断的で全身に及ぶ生理的变化を理解し、主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療の知識を臨床的に使用できる。</b>													
	遺伝医療・ゲノム医療	<input type="checkbox"/>											
	免疫・アレルギー	<input type="checkbox"/>											
	感染症	<input type="checkbox"/>											
	腫瘍	<input type="checkbox"/>											
	救急系（中毒・環境因子による疾患を含む）	<input type="checkbox"/>											
	放射線の生体影響と適切な利用、放射線障害	<input type="checkbox"/>											

指導医のコメント

指導医のサイン

PS	専門知識に基づいた問題解決能力	自己評価					評価 機会 なし	指導者評価					評価 機会 なし
		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
	<b>基礎医学：分子レベルから個体レベルまでの、生命現象、細胞から個体の構成と機能、個体の反応を理解し、その破綻による病因と病態を理解する。</b>												
	生命現象の科学	<input type="checkbox"/>											
	個体の構成と機能	<input type="checkbox"/>											
	個体の反応	<input type="checkbox"/>											
	病因と病態	<input type="checkbox"/>											
	<b>人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療：人体各器官の構造と機能を理解し、主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療の知識を臨床的に使用できる。</b>												
	総論	<input type="checkbox"/>											
	血液・造血器・リンパ系	<input type="checkbox"/>											
	神経系	<input type="checkbox"/>											
	皮膚系	<input type="checkbox"/>											
	運動器（筋骨格）系	<input type="checkbox"/>											
	循環器系	<input type="checkbox"/>											
	呼吸器系	<input type="checkbox"/>											
	消化器系	<input type="checkbox"/>											
	腎・尿路系（体液・電解質バランスを含む）	<input type="checkbox"/>											
	生殖器系	<input type="checkbox"/>											
	妊娠と分娩	<input type="checkbox"/>											
	小児	<input type="checkbox"/>											
	乳房	<input type="checkbox"/>											
	内分泌・栄養・代謝系	<input type="checkbox"/>											
	眼・視覚系	<input type="checkbox"/>											
	耳鼻・咽喉・口腔系	<input type="checkbox"/>											
	精神系	<input type="checkbox"/>											
	<b>全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療：器官横断的で全身に及ぶ生理的变化を理解し、主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療の知識を臨床的に使用できる。</b>												
	遺伝医療・ゲノム医療	<input type="checkbox"/>											
	免疫・アレルギー	<input type="checkbox"/>											
	感染症	<input type="checkbox"/>											
	腫瘍	<input type="checkbox"/>											
	救急系（中毒・環境因子による疾患を含む）	<input type="checkbox"/>											
	放射線の生体影響と適切な利用、放射線障害	<input type="checkbox"/>											

指導医のコメント

指導医のサイン

IT	情報・科学技術を活かす能力	自己評価					評価 機会 なし	指導者評価					評価 機会 なし
		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
<b>情報・科学技術に向き合うための倫理観とルール</b> ：医学研究・医療等の場面で、情報科学技術を取り扱う際に必要な倫理観・デジタルプロフェッショナリズム及び基本的原則を理解する。													
情報・科学技術に向き合うための準備		<input type="checkbox"/>											
情報・科学技術利用にあたっての倫理観とルール		<input type="checkbox"/>											
<b>医療とそれを取り巻く社会に必要な情報・科学技術の原理</b> ：安全かつ質の高い医学研究・医療に必要な情報・科学技術に関する基本理論を理解し、その知識を自身の学習や医療への適応する姿勢を体得する。													
情報・科学技術を活用した医療		<input type="checkbox"/>											
情報・科学技術の先端知識		<input type="checkbox"/>											
<b>診療現場における情報・科学技術の活用</b> ：遠隔医療を含む患者診療、学習の最適化に有効なICTツールの実践スキル及びデジタルコミュニケーションスキルを修得する。													
情報・科学技術を活用したコミュニケーションスキル		<input type="checkbox"/>											
情報・科学技術を活用した学習スキル		<input type="checkbox"/>											

指導医のコメント

指導医のサイン

CS	患者ケアのための診療技能	自己評価					評価 機会 なし	指導者評価					評価 機会 なし
		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
	<b>患者の情報収集</b> ：患者本人、家族、医療スタッフ等関係する様々なリソースを活用し、診療に必要な情報を収集できる。												
	医療面接	<input type="checkbox"/>											
	身体所見	<input type="checkbox"/>											
	<b>患者情報の統合、分析と評価、診療計画</b> ：得られた全ての情報を統合し、様々な観点から分析し、必要な医療について評価した上で提供すべき医療を計画できる。												
	診療録記載	<input type="checkbox"/>											
	臨床推論	<input type="checkbox"/>											
	検査(計画・分析評価)	<input type="checkbox"/>											
	教育計画	<input type="checkbox"/>											
	<b>治療を含む対応の実施</b> ：患者の状態の評価に基づいて患者本人、家族、医療スタッフと連携し、必要な医療を提案または実施できる。												
	検査手技	<input type="checkbox"/>											
	治療手技	<input type="checkbox"/>											
	救急・初期対応	<input type="checkbox"/>											
	書類の作成	<input type="checkbox"/>											
	患者ケアに必要な連携	<input type="checkbox"/>											
	診療計画カンファレンス	<input type="checkbox"/>											
	<b>診療経過の振り返りと改善</b> ：実施された医療を省察し、言語化して他者に説明し、次回に向けて改善につなげることができる。												
	振り返りカンファレンス	<input type="checkbox"/>											
	<b>医療の質と患者安全</b> ：医療の質と患者安全の観点で自己の行動を省察し、組織改善と患者中心の視点を獲得する。												
	医療の質向上	<input type="checkbox"/>											
	医療従事者の健康管理	<input type="checkbox"/>											
	安全管理体制	<input type="checkbox"/>											
	感染制御	<input type="checkbox"/>											
	患者安全の配慮と促進	<input type="checkbox"/>											
	患者安全の実践	<input type="checkbox"/>											

指導医のコメント

指導医のサイン

CM	コミュニケーション能力	自己評価					評価 機会 なし	指導者評価					評価 機会 なし
		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
<b>患者に接する言葉遣い・態度・身だしなみ・配慮：</b> 患者のプライバシー、苦痛等に配慮し、非言語コミュニケーションを含めた適切なコミュニケーションスキルにより良好な人間関係を築くことができる。													
患者・家族への適切なコミュニケーションスキルの活用		<input type="checkbox"/>											
患者の立場の尊重と苦痛への配慮		<input type="checkbox"/>											
<b>患者の意思決定の支援とそのための情報収集・わかりやすい説明：</b> 患者や家族の多様性に配慮し、必要な情報についてわかりやすく説明を行い、患者の主体的な治療やマネジメントに関する最善の意思決定を支援できる。													
患者へのわかりやすい言葉の説明		<input type="checkbox"/>											
患者への行動変容の促し		<input type="checkbox"/>											
患者の意思決定の支援		<input type="checkbox"/>											
<b>患者や家族のニーズの把握と配慮：</b> 患者や家族の心理的、社会的背景を広い視野で捉える姿勢を持ち、患者の持つ困難や必要な情報提供に対応できる。													
患者・家族の課題の把握と必要な情報の取得		<input type="checkbox"/>											
患者・家族の心理・社会的背景に配慮した診療		<input type="checkbox"/>											

指導医のコメント

指導医のサイン

IP	多職種連携能力	自己評価					評価 機会 なし	指導者評価					評価 機会 なし
		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
<b>連携の基盤：</b> 患者や利用者、家族、地域の重要な課題について、協働する関係者と共通の目標を設定する過程で、背景が異なることに互いに配慮し、役割、知識、意見、価値を伝え合うことができる。													
患者中心の保健医療福祉		<input type="checkbox"/>											
職種間コミュニケーション		<input type="checkbox"/>											
医師間の紹介と相談		<input type="checkbox"/>											
<b>協働実践：</b> 自他の役割や思考・行為・感情・価値観を踏まえ、協働する職種で信頼関係を構築し、時に生じる職種間の葛藤にも適切に対応しながら、互いの知識・技術を活かし合い、職種としての役割を全うできる。													
職種役割		<input type="checkbox"/>											
関係性への働きかけ		<input type="checkbox"/>											
自職種の省察		<input type="checkbox"/>											
他職種の理解		<input type="checkbox"/>											

指導医のコメント

指導医のサイン

SO	社会における医療の役割の理解	自己評価					評価 機会 なし	指導者評価					評価 機会 なし
		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
	<b>社会保障</b> ：憲法で定められた「生存権」を守る社会保障制度、公衆衛生とは何か、地域保健、産業保健、健康危機管理を理解する。保健統計の意義・利用法を学ぶ。												
	公衆衛生	<input type="checkbox"/>											
	社会保険、公的扶助、社会福祉	<input type="checkbox"/>											
	地域保健	<input type="checkbox"/>											
	産業保健・環境保健	<input type="checkbox"/>											
	健康危機管理	<input type="checkbox"/>											
	<b>疫学・医学統計</b> ：人間集団を対象とする研究方法である疫学の考え方と意義、主な研究デザインを学ぶ。医学、生物学における統計手法の基本的な考え方を理解する。												
	保健統計	<input type="checkbox"/>											
	疫学	<input type="checkbox"/>											
	データ解析と統計手法	<input type="checkbox"/>											
	<b>法医学</b> ：死の判定や死亡診断と死体検案を理解する。												
	死と法	<input type="checkbox"/>											
	<b>社会の構造や変化から捉える医療</b> ：患者の抱える健康に関する問題の背景にある社会的な課題を適切に捉え、その解決のために積極的に行動する。												
	健康と医療	<input type="checkbox"/>											
	ジェンダーと医療	<input type="checkbox"/>											
	気候変動と医療	<input type="checkbox"/>											
	哲学・倫理と医療	<input type="checkbox"/>											
	歴史と医学・医療	<input type="checkbox"/>											
	医療経済	<input type="checkbox"/>											
	<b>国内外の視点から捉える医療</b> ：国内、及び、国際社会の中で規定される医療の役割と医療体制について概要を理解している。												
	国内の医療職の役割や医療体制	<input type="checkbox"/>											
	グローバルヘルスの役割や医療体制	<input type="checkbox"/>											
	<b>社会科学の視点から捉える医療</b> ：医学的・文化的・社会的文脈のなかで生成される健康観や人びとの言動・関係性を理解し、社会科学(主に医療人類学・医療社会学)の視点・理論・方法から、それを臨床実践に活用することができる。												
	社会科学と医療との関係	<input type="checkbox"/>											

指導医のコメント

指導医のサイン

## 2. 医療面接・身体診察・診療録記載

実習を振り返って「1:経験なし 2:見学する 3:実演(シミュレータで)できる 4:教員等の直接の監督下でできる 5:教員等がすぐに対応できる状況下でできる」のうち、どの段階であったかを記録します。目標レベル:○

医療面接・身体診察・診療録記載	自己評価					評価機会なし	指導者評価					評価機会なし
	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
医療面接	<input type="checkbox"/>											
頭部(顔貌、頭髪、頭皮、頭蓋)の診察	<input type="checkbox"/>											
眼(視野、瞳孔、対光反射、眼球運動・突出、結膜)の診察	<input type="checkbox"/>											
耳(耳介、聴力)の診察	<input type="checkbox"/>											
耳鏡を用いた外耳道、鼓膜の観察	<input type="checkbox"/>											
口唇、口腔、咽頭、扁桃の診察	<input type="checkbox"/>											
副鼻腔の診察	<input type="checkbox"/>											
鼻鏡を用いた前鼻腔の観察	<input type="checkbox"/>											
甲状腺、頸部血管、気管、唾液腺の診察	<input type="checkbox"/>											
頭頸部リンパ節の診察	<input type="checkbox"/>											
胸部の視診、触診、打診	<input type="checkbox"/>											
呼吸音と副雑音の聴診	<input type="checkbox"/>											
心音と心雑音の聴診	<input type="checkbox"/>											
腹部の視診、聴診(腸雑音、血管雑音)、打診、触診	<input type="checkbox"/>											
背部の叩打痛	<input type="checkbox"/>											
直腸(前立腺を含む)指診	<input type="checkbox"/>											
乳房の診察	<input type="checkbox"/>											
意識レベルの判定	<input type="checkbox"/>											
脳神経系の診察	<input type="checkbox"/>											
眼底検査	<input type="checkbox"/>											
腱反射の診察	<input type="checkbox"/>											
小脳機能・運動系の診察	<input type="checkbox"/>											
感覚系(痛覚、温度覚、触覚、深部感覚)の診察	<input type="checkbox"/>											
髄膜刺激所見	<input type="checkbox"/>											
四肢と脊柱(彎曲、疼痛)の診察	<input type="checkbox"/>											
関節(可動域、腫脹、疼痛、変形)の診察	<input type="checkbox"/>											
筋骨格系の診察(徒手筋力テスト)	<input type="checkbox"/>											
婦人科診察(双合診・クスコ診)	<input type="checkbox"/>											
診療録記載	<input type="checkbox"/>											

指導医のコメント

指導医のサイン

## 3 臨床推論

診療参加型臨床実習では、診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を学びます。以下に挙げた症候・病態と疾患名の組合せのうち、実習で臨床推論を学んだ疾患名を記録してください。

主要症候について鑑別診断を検討し、診断の要点を説明できる。

症候 (1) 検討すべき鑑別疾患  
**発熱** 髄膜炎、急性副鼻腔炎、扁桃炎、上気道炎、インフルエンザ、肺炎、結核、感染性心内膜炎、胆嚢炎、胆管炎、尿路感染症、蜂巣炎、薬剤性  
（その他）

指導医のコメント

指導医のサイン

症候 (2) 検討すべき鑑別疾患  
**全身倦怠感** 甲状腺機能低下症、結核、心不全、肝炎、鉄欠乏性貧血、うつ病  
（その他）

指導医のコメント

指導医のサイン

症候 (3) 検討すべき鑑別疾患  
**食思(欲)不振** 消化性潰瘍、急性肝炎、うつ病、急性副腎不全  
（その他）

指導医のコメント

指導医のサイン

症候 (4) 検討すべき鑑別疾患  
**体重減少** 甲状腺機能亢進症、慢性閉塞性肺疾患 (COPD)、悪性腫瘍全般、糖尿病、神経性食思(欲)不振症(拒食症)、うつ病  
（その他）

指導医のコメント

指導医のサイン

症候 (5) 検討すべき鑑別疾患  
**体重増加** 甲状腺機能低下症、心不全、ネフローゼ症候群  
（その他）

指導医のコメント

指導医のサイン

症候 (6) 検討すべき鑑別疾患  
**意識障害** 脳出血、脳梗塞、頭蓋内血腫、脳炎、てんかん、くも膜下出血、髄膜炎、心筋梗塞、急性大動脈解離、急性消化管出血、敗血症、薬物中毒、アルコール性中毒、CO2ナルコーシス、低血糖、ナトリウム代謝異常、ショック  
（その他）

指導医のコメント

指導医のサイン

症候 (7) 検討すべき鑑別疾患  
**失神** てんかん、肺塞栓症、不整脈、弁膜症(大動脈弁膜症)  
（その他）

指導医のコメント

指導医のサイン

症候 (7) <b>失神</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> てんかん、 <input type="checkbox"/> 肺塞栓症、 <input type="checkbox"/> 不整脈、 <input type="checkbox"/> 弁膜症(大動脈弁膜症) <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン
症候 (8) <b>けいれん</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> 脳梗塞、 <input type="checkbox"/> 脳出血、 <input type="checkbox"/> 脳炎、 <input type="checkbox"/> 脳症、 <input type="checkbox"/> 熱性けいれん、 <input type="checkbox"/> てんかん <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン
症候 (9) <b>めまい</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> 脳出血、 <input type="checkbox"/> 脳梗塞、 <input type="checkbox"/> 良性発作性頭位めまい症、 <input type="checkbox"/> Meniere病、 <input type="checkbox"/> 前庭神経炎 <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン
症候 (10) <b>浮腫</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> 甲状腺機能低下症、 <input type="checkbox"/> 心不全、 <input type="checkbox"/> 肝硬変、 <input type="checkbox"/> ネフローゼ症候群、 <input type="checkbox"/> 慢性腎臓病、 <input type="checkbox"/> 薬剤性、 <input type="checkbox"/> 深部静脈血栓症、 <input type="checkbox"/> リンパ浮腫、 <input type="checkbox"/> 血管性浮腫 <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン
症候 (11) <b>発疹</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> ウイルス性発疹症(麻疹)、 <input type="checkbox"/> ウイルス性発疹症(風疹)、 <input type="checkbox"/> ウイルス性発疹症(水痘)、 <input type="checkbox"/> ウイルス性発疹症(ヘルペス)、 <input type="checkbox"/> 帯状疱疹、 <input type="checkbox"/> 伝染性紅斑、 <input type="checkbox"/> 薬疹、 <input type="checkbox"/> 蕁麻疹、 <input type="checkbox"/> 皮膚炎(アトピー性皮膚炎)、 <input type="checkbox"/> 結節性紅斑、 <input type="checkbox"/> 湿疹 <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン
症候 (12) <b>咳・痰</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> 副鼻腔炎、 <input type="checkbox"/> アレルギー性鼻炎、 <input type="checkbox"/> 上気道炎、 <input type="checkbox"/> 感冒(かぜ症候群)、 <input type="checkbox"/> 百日咳、 <input type="checkbox"/> 気管支炎、 <input type="checkbox"/> 気管支喘息、 <input type="checkbox"/> 肺炎、 <input type="checkbox"/> 肺結核、 <input type="checkbox"/> 肺癌、 <input type="checkbox"/> 間質性肺疾患、 <input type="checkbox"/> 胃食道逆流症(GERD)、 <input type="checkbox"/> 薬剤性 <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン
症候 (13) <b>血痰・喀血</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> 気管支拡張症、 <input type="checkbox"/> 肺結核、 <input type="checkbox"/> 肺癌 <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン
症候 (14) <b>呼吸困難</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> 急性喉頭蓋炎、 <input type="checkbox"/> 窒息、 <input type="checkbox"/> 気管支喘息、 <input type="checkbox"/> 肺塞栓症、 <input type="checkbox"/> 急性呼吸促(窮)迫症候群(ARDS)、 <input type="checkbox"/> 慢性閉塞性肺疾患(COPD)、 <input type="checkbox"/> 肺炎、 <input type="checkbox"/> 間質性肺疾患、 <input type="checkbox"/> 肺結核、 <input type="checkbox"/> 緊張性気胸、 <input type="checkbox"/> 自然気胸、 <input type="checkbox"/> 心不全、 <input type="checkbox"/> アナフィラキシー <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン

症候 (22) <b>便秘</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> Parkinson病、 <input type="checkbox"/> 甲状腺機能低下症、 <input type="checkbox"/> 便秘症、 <input type="checkbox"/> 過敏性腸症候群、 <input type="checkbox"/> 腸閉塞、 <input type="checkbox"/> 大腸癌、 <input type="checkbox"/> 薬剤性 <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン
症候 (23) <b>下痢</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> 甲状腺機能亢進症、 <input type="checkbox"/> 急性胃腸炎、 <input type="checkbox"/> 炎症性腸疾患、 <input type="checkbox"/> 過敏性腸症候群、 <input type="checkbox"/> 薬剤性 <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン
症候 (24) <b>黄疸</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> 急性肝炎、 <input type="checkbox"/> 慢性肝炎、 <input type="checkbox"/> 肝硬変、 <input type="checkbox"/> 肝癌、 <input type="checkbox"/> 生理的黄疸、 <input type="checkbox"/> 胆管炎、 <input type="checkbox"/> 胆管癌、 <input type="checkbox"/> 膵癌、 <input type="checkbox"/> 溶血性貧血、 <input type="checkbox"/> 薬剤性、 <input type="checkbox"/> 生理的黄疸 <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン
症候 (25) <b>腹部膨隆・腫痛</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> 肝硬変、 <input type="checkbox"/> 腸閉塞、 <input type="checkbox"/> 鼠径ヘルニア、 <input type="checkbox"/> 妊娠 <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン
症候 (26) <b>リンパ節腫脹</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> 扁桃炎、 <input type="checkbox"/> ウイルス性発疹症(風疹)、 <input type="checkbox"/> 結核、 <input type="checkbox"/> 伝染性単核(球)症、 <input type="checkbox"/> 悪性リンパ腫、 <input type="checkbox"/> その他の悪性腫瘍全般 <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン
症候 (27) <b>尿量・排尿の異常</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> 尿路感染症、 <input type="checkbox"/> 前立腺肥大症、 <input type="checkbox"/> 過活動膀胱、 <input type="checkbox"/> 神経因性膀胱、 <input type="checkbox"/> 薬剤性、 <input type="checkbox"/> 糖尿病 <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン
症候 (28) <b>血尿</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> 糸球体腎炎症候群、 <input type="checkbox"/> 腎細胞癌、 <input type="checkbox"/> 尿路結石、 <input type="checkbox"/> 尿路感染症、 <input type="checkbox"/> 膀胱癌 <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン
症候 (29) <b>月経異常</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> 月経困難症、 <input type="checkbox"/> 子宮内膜症、 <input type="checkbox"/> 子宮体癌、 <input type="checkbox"/> 妊娠、 <input type="checkbox"/> 薬剤性、 <input type="checkbox"/> 更年期障害 <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン

症候 (30) <b>不安・抑うつ</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> 認知症、 <input type="checkbox"/> Parkinson病、 <input type="checkbox"/> 甲状腺機能亢進症、 <input type="checkbox"/> 甲状腺機能低下症、 <input type="checkbox"/> 悪性腫瘍全般、 <input type="checkbox"/> 薬剤性、 <input type="checkbox"/> うつ病、 <input type="checkbox"/> 双極性障害、 <input type="checkbox"/> 不安障害、 <input type="checkbox"/> 適応障害 <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン
症候 (31) <b>認知障害</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> 認知症、 <input type="checkbox"/> Parkinson病、 <input type="checkbox"/> 脳梗塞、 <input type="checkbox"/> 正常圧水頭症、 <input type="checkbox"/> 慢性硬膜下血腫、 <input type="checkbox"/> 甲状腺機能低下症、 <input type="checkbox"/> 薬剤性、 <input type="checkbox"/> うつ病 <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン
症候 (32) <b>頭痛</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> 片頭痛、 <input type="checkbox"/> 緊張型頭痛、 <input type="checkbox"/> 群発頭痛、 <input type="checkbox"/> 脳出血、 <input type="checkbox"/> くも膜下出血、 <input type="checkbox"/> 髄膜炎、 <input type="checkbox"/> 緑内障、 <input type="checkbox"/> 急性副鼻腔炎、 <input type="checkbox"/> 巨細胞性動脈炎（側頭動脈炎）、 <input type="checkbox"/> 薬剤性 <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン
症候 (33) <b>運動麻痺・筋力低下</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> 脳梗塞、 <input type="checkbox"/> 一過性脳虚血発作、 <input type="checkbox"/> 脳出血、 <input type="checkbox"/> 頭蓋内血腫、 <input type="checkbox"/> てんかん、 <input type="checkbox"/> 脊髄損傷、 <input type="checkbox"/> 椎間板ヘルニア、 <input type="checkbox"/> 筋萎縮性側索硬化症、 <input type="checkbox"/> Guillain-Barre 症候群、 <input type="checkbox"/> 多発性筋炎、 <input type="checkbox"/> 皮膚筋炎、 <input type="checkbox"/> カリウム代謝異常 <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン
症候 (34) <b>歩行障害</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> 脳出血、 <input type="checkbox"/> 頭蓋内血腫、 <input type="checkbox"/> 脳梗塞、 <input type="checkbox"/> Parkinson病、 <input type="checkbox"/> 変形性脊椎症、 <input type="checkbox"/> 脊柱管狭窄症、 <input type="checkbox"/> 椎間板ヘルニア、 <input type="checkbox"/> 変形性関節症、 <input type="checkbox"/> 骨折 <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン
症候 (35) <b>感覚障害</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> 脊柱管狭窄症、 <input type="checkbox"/> 椎間板ヘルニア、 <input type="checkbox"/> 多発神経炎、 <input type="checkbox"/> 糖尿病 <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン
症候 (36) <b>腰背部痛</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> 急性大動脈解離、 <input type="checkbox"/> 急性膵炎、 <input type="checkbox"/> 膵癌、 <input type="checkbox"/> 尿管結石、 <input type="checkbox"/> 椎間板ヘルニア、 <input type="checkbox"/> 変形性脊椎症、 <input type="checkbox"/> 脊柱管狭窄症、 <input type="checkbox"/> 脊椎圧迫骨折、 <input type="checkbox"/> 急性腰痛症、 <input type="checkbox"/> 化膿性脊椎炎 <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン
症候 (37) <b>関節痛・関節腫脹</b>	検討すべき鑑別疾患 <input type="checkbox"/> 化膿性関節炎、 <input type="checkbox"/> 変形性関節症、 <input type="checkbox"/> 関節リウマチ、 <input type="checkbox"/> 全身性エリテマトーデス (SLE)、 <input type="checkbox"/> 反応性関節炎、 <input type="checkbox"/> 痛風、 <input type="checkbox"/> 偽痛風、 <input type="checkbox"/> 外傷 <input type="checkbox"/> （その他）
指導医のコメント	指導医のサイン

#### 4 基本的臨床手技

実習を振り返って「1：経験なし 2：見学する 3：実演（シミュレータで）できる 4：教員等の直接の監督下でできる 5：教員等がすぐに対応できる状況下でできる」のうち、どの段階であったかを記録します。目標レベル：○

分類	基本的臨床手技	自己評価					評価 機会 なし	指導者評価					評価 機会 なし
		1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	
一般手技	体位交換、移送	<input type="checkbox"/>											
	気道内吸引	<input type="checkbox"/>											
	静脈採血	<input type="checkbox"/>											
	末梢静脈の血管確保	<input type="checkbox"/>											
	動脈血採血	<input type="checkbox"/>											
	腰椎穿刺	<input type="checkbox"/>											
	胃管の挿入と抜去	<input type="checkbox"/>											
	尿道カテーテルの挿入と抜去	<input type="checkbox"/>											
	皮内注射	<input type="checkbox"/>											
	皮下注射	<input type="checkbox"/>											
	筋肉注射	<input type="checkbox"/>											
	静脈内注射	<input type="checkbox"/>											
	検査手技	微生物学検査（Gram染色を含む）	<input type="checkbox"/>										
12誘導心電図の記録		<input type="checkbox"/>											
臨床判断のための簡易エコー（FAST含む）		<input type="checkbox"/>											
病原体抗原の迅速検査		<input type="checkbox"/>											
簡易血糖測定		<input type="checkbox"/>											
外科手技	清潔操作	<input type="checkbox"/>											
	手術や手技のための手洗い	<input type="checkbox"/>											
	手術室におけるガウンテクニック	<input type="checkbox"/>											
	基本的な縫合と抜糸	<input type="checkbox"/>											

## 臨床実習前の確認事項

### 賠償責任保険について

医療事故（自分自身の針刺し事故、院内感染等を補償する傷害保険、および実習施設や患者さんの損害を補償する損害賠償責任保険）までカバーする保険に入っていますか？（例：学研災付帯学生生活総合保険、医学生教育研究賠償責任保険等）

保険名称：

連絡先：

### ウイルス抗体価について

	抗体価（日付）	ワクチン接種（日付）
麻疹		
風疹		
水痘		
ムンプス		
B型肝炎		

実習では医療機関に来る不特定多数の人々と接する機会があり、もし感染すると自身の健康を害するだけでなく、仲間や患者さんへ感染を拡大させる危険性がある。空気感染を起こす疾患の場合、サークル活動や講義室での同席を通じて他学年や他学部へ拡大する懸念もある。したがってこれらの感染症は予防することが大切で、ワクチン接種が第一の予防策である。

## 臨床実習開始までの学修履歴

ここでは、これまでに学んできた内容について、その内容をファイルします。医学部の必修カリキュラムに加えて、課外活動等についてもまとめておきます。なお、基礎医学研究室などでの研究活動の記録については、次項の「研究活動記録」に記載して下さい。

○プロフェッショナリズムに関する学修内容

○総合的に患者・生活者をみる姿勢に関する学修内容

○コミュニケーションと多職種連携に関する学修内容

○臨床実習導入教育 Introduction to clinical medicine 等の臨床実習開始前の実習内容

○その他（基礎医学科目の成績、共用試験の成績、部活動の優秀な成績の記録、ボランティア活動記録、これまでに読んだ本のリスト、他大学や他学部で聴講した講義の記録等）

## 研究活動の記録

ここには、医学部在学中の研究活動（基礎研究・臨床研究）について記録します。

研究室

指導教員

研究活動期間（ ）年（ ）月（ ）日～（ ）年（ ）月（ ）日

研究テーマ

研究活動の概要

成果

教員のサイン

各診療科

### 個別の学修目標設定

#### -学修契約-

このシートは臨床実習の最初に、教員の先生と行うオリエンテーションで使用するものです。最初に教員の先生から該当科の学修目標について説明がありますので、それを参考にしながら、「自分自身の（独自の）学修目標」を初日に書いて、教員の先生にコピーを提出してください。この学修目標を基に実習を進めていきます。

※教員の先生方へ：このシートは学生と協同して学修目標を設定する際にご使用ください。先生方が期待する学修目標と、学生が期待する学修目標との擦り合わせというイメージです。またこの設定のために、必ず臨床実習の最初にオリエンテーションを行って頂きますよう、お願いいたします。

診療科 \_\_\_\_\_ 科

臨床実習における学修目標（学生が教員と共に記入）

- 1.
- 2.
- 3.

シラバスに記載されている臨床実習での教育目標

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- ...

<記入例：循環器内科>

この科の臨床実習の学修目標（学生が教員と共に記入）

1. 心電図の基本的な所見を読めるようになる
2. どのような場合に循環器内科にコンサルトしたらよいか分かるようになる
3. 心不全の急性期の管理を手伝えるようになる

4. 自分が循環器科に向いているかがわかるようになる

<記入例：精神科>

この科の臨床実習の学修目標（学生が教員と共に記入）

1. 鬱病の疑いのある患者さんが自殺しないような医療面接が出来るようになる
2. どのような場合に精神科にコンサルトしたらよいかわかるようになる
3. 精神科病棟での患者さんの管理を体験する

## 臨床実習で観察して学んだこと

臨床現場には様々な社会背景をもつ患者さんに対して、たくさんの医療職が様々な業務を行っています。その様子を観察する中で、気づいたことを記録しておきます。医師と患者の関係性等、様々な視点で観察したことを観察記録（フィールドノート）の形で記録しておくことは、自分自身の医療に対する視点を知ることにも役立ちます。以下の問いはフィールドノートをつける際の問いの一例ですが、これ以外にも自由に観察したことを記録していきましょう。また必要に応じて、指導医や同級生との振り返りにも使用すると学びが深まります。

診療科 \_\_\_\_\_ 科

- 1) 今回の臨床実習で得た診療科のイメージはどのようなものですか？
- 2) 今回の臨床実習で特に印象に残った診療場面を記述します
- 3) なぜその場面が印象に残ったのでしょうか？
- 4) その他、臨床現場を観察して気づいたことを自由に記述しておきましょう

〇〇科 実習日誌

	日 (月)	日 (火)	日 (水)	日 (木)	日 (金)	休日・当直 等 日
教員サイン (出席確認)						
今日の目標						
実習内容						
今日の振り返り (学べたこと・反省点等)						

※各大学で実習内容を記入したものを学生に配布して下さい

担当入院症例病歴要約

提出 No. \_\_\_\_\_ 診療科名 \_\_\_\_\_ 病院名 \_\_\_\_\_  
患者年齢 歳代, 性別 男性・女性 入院日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日  
退院日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日  
受持期間 自 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日  
至 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

転帰: 治癒 軽快 転科(手術 有・無) 不変 死亡(剖検 有・無)

フォローアップ: 外来で 他医へ依頼 転院

確定診断名 (主病名及び副病名)

①

②

③

【主訴】

【現病歴】

【既往歴】

【生活社会歴】

【家族歴】

【主な入院時現症】

【主要な検査所見】

プロブレムリスト

#1.

#2.

#3.

【入院後経過と考察】

#1.

#2.

#3.

【退院時処方】

【総合考察】

【本症例を通して自身が感じたこと】

記載者： 氏名

担当教員： 氏名

担当外来症例一覧

No.	診察日 年 月 日			
	病院または施設名			診断名
	年齢	歳代		性別
	初診日			転帰
	1	サマリー		
No.	診察日 年 月 日			
	病院または施設名			診断名
	年齢	歳代		性別
	初診日			転帰
	2	サマリー		
No.	診察日 年 月 日			
	病院または施設名			診断名
	年齢	歳代		性別
	初診日			転帰
	1	サマリー		

No. 4	診察日 年 月 日			
	病院または施設名			診断名
	年齢	歳代	性別	
	初診日		転帰	
	サマリー			
No. 5	診察日 年 月 日			
	病院または施設名			診断名
	年齢	歳代	性別	
	初診日		転帰	
	サマリー			
No. 6	診察日 年 月 日			
	病院または施設名			診断名
	年齢	歳代	性別	
	初診日		転帰	
	サマリー			

簡易版臨床能力評価に関する評価表  
(mini-CEX mini-Clinical Evaluation eXercise)

学生番号		学生氏名	
診療科	科	外来・入院・救急・当直・往診・ その他（ ）	
症状または疾患名			
日時	年 月 日	時間	: ~ :
症例の 複雑さ	易 ・ 普通 ・ 難 理由 :	mini-CEX の経験	今回が 初めて ・ 2回目 ・ 3回目 ・ ( ) 回目

	1	2	3	4	5	6	評価不能
1. 病歴（病状の把握）	<input type="checkbox"/>						
2. 身体診察	<input type="checkbox"/>						
3. コミュニケーション能力	<input type="checkbox"/>						
4. 臨床判断	<input type="checkbox"/>						
5. プロフェッショナルリズム	<input type="checkbox"/>						
6. マネジメント	<input type="checkbox"/>						
7. 総合臨床能力	<input type="checkbox"/>						

医学生として望まれる能力を満たす場合に4（臨床実習修了時（卒業時）のレベル）を、それ以上の場合に5（臨床研修の中間時点で期待されるレベル）、6（臨床研修の終了時点で期待されるレベル）を、ボーダーラインで3（臨床実習の中間時点で期待されるレベル）を、能力が明らかに劣る場合に2（臨床実習開始時のレベル）、1（臨床実習開始前のレベル）を付ける。

「評価不能」は、観察していなくてコメントできない時に付ける。

特に良かった点（観察者記入）

改善すべき点（観察者記入）



観察者と合意した学修課題（学生記入）

観察時間： \_\_\_\_\_ 分

フィードバックの時間： \_\_\_\_\_ 分

評価者サイン： \_\_\_\_\_

学生サイン： \_\_\_\_\_

臨床手技の評価に関する評価表

(DOPS Direct Observation of Procedural Skills)

臨床手技を実施するところを教員の先生に観察してもらい評価してもらうための評価表です。各科で教員に依頼して、実施した手技について評価してもらって下さい。 ※学生が担当した患者さんの

担当医をされている教員の先生方へ：指導監督の下で学生が実施した臨床手技を、以下の評価基準・評価方法を参考に評価ください。

場面：救急外来・入院患者・一般外来・当直・往診・その他（ ）

科別： 日時： 年 月 日

手技名：

症例の難易度； 易 普通 難	1	2	3	4	5	6	U/C
1. 適応、解剖、手技の理解	<input type="checkbox"/>						
2. インフォームド・コンセントの取得	<input type="checkbox"/>						
3. 事前の準備	<input type="checkbox"/>						
4. 技能	<input type="checkbox"/>						
5. 清潔操作	<input type="checkbox"/>						
6. 安全への配慮・援助の要請	<input type="checkbox"/>						
7. 手技後の管理	<input type="checkbox"/>						
8. コミュニケーション	<input type="checkbox"/>						
9. プロフェッショナリズム	<input type="checkbox"/>						
10. 総合（概略評価）	<input type="checkbox"/>						

望まれる能力のある段階を4（臨床実習修了時（卒業時）のレベル）として、ボーダーラインが3（臨床実習の中間時点で期待されるレベル）、能力が明らかにそれ以下のとき2（臨床実習開始時のレベル）、1（臨床実習開始前のレベル）、それ以上あるとき5（臨床研修の中間時点で期待されるレベル）、6（臨床研修の終了時点で期待されるレベル）をつける。U/Cはコメントできないとき。

良かった点
-------

改善すべき点
--------

評価者と合意した学修課題

--

評価者所属 \_\_\_\_\_ 氏名

学生サイン \_\_\_\_\_

### 症例の担当に関する評価表

(CbD Case-based Discussion)

担当患者さんへの関わりについて、診療録（カルテ）や担当した症例の記録に基づいて教員の先生に評価してもらうための評価表です。各科で教員に依頼して、自分の診療活動について評価してもらって下さい。 ※学生が担当した患者さんの担当医をされている教員の先生方へ：学生の患者への関わりに関して、診療録（カルテ）記載や症例記録に基づき学生と議論をし、以下の評価基準・評価方法を参考に評価ください。

場面：救急外来・入院患者・一般外来・当直・往診・その他（ ）

科別： 日時： 年 月 日

症例の複雑さ； 易 普通 難	1	2	3	4	5	6	U/C
1. 診療録（カルテ）記載	<input type="checkbox"/>						
2. 臨床診断（アセスメント）	<input type="checkbox"/>						
3. 診療計画	<input type="checkbox"/>						
4. プロフェッショナリズム	<input type="checkbox"/>						
5. 総合（概略評価）	<input type="checkbox"/>						

望まれる能力のある段階を4（臨床実習修了時（卒業時）のレベル）として、ボーダーラインが3（臨床実習の中間時点で期待されるレベル）、能力が明らかにそれ以下のとき2（臨床実習開始時のレベル）、1（臨床実習開始前のレベル）、それ以上あるとき5（臨床研修の中間時点で期待されるレベル）、6（臨床研修の終了時点で期待されるレベル）をつける。U/Cはコメントできないとき。

良かった点
-------

改善すべき点
--------

評価者と合意した学修課題

--

評価者所属 \_\_\_\_\_ 氏名

学生サイン \_\_\_\_\_

多職種による学生評価（360度評価）

医師以外の医療スタッフに評価をしてもらってください。 ※評価者の方へ：近年、医学生の臨床実習が診療に参加する形になってきています。学生の評価を皆様の視点からもお願いできればと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。

診療科\_\_\_\_\_

- 1) 臨床実習期間中のこの学生の行動について、よかった点をあげてください。
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- 2) 臨床実習期間中のこの学生の行動について、改善したほうがよいと感じた点をあげてください。
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- 3) その他、気づいたことがあれば自由に記載してください。

学生氏名\_\_\_\_\_

所属\_\_\_\_\_ 職種\_\_\_\_\_ 評価者氏名\_\_\_\_\_

### 患者さん（含模擬患者）からの感想

担当した患者さん（又は模擬患者さん）に以下のフォーマットに従って感想を書いてもらいます。  
※このシートを受け取った患者（又は模擬患者）の方へ：学生教育にご協力いただきありがとうございます。  
担当させていただいた学生についてコメントを頂けると幸いです。

#### 診療科

○臨床実習期間中のこの学生の行動について、自由に感想をお聞かせください。

#### 学生の名前

#### 記入者

ローテーション終了時の振り返り

このシートは、臨床実習の最後で教員の先生とのまとめに使用するものです。最初に立てた学修目標を基に、自身の臨床実習を振り返ります。

※教員の先生方へ：このシートは臨床実習のローテーション終了時の学生評価を行う際にご使用ください。

診療科 \_\_\_\_\_ 科

個別の学修目標設定（学修契約）で記入した臨床実習における学修目標

- 1.
- 2.
- 3.

- a) 今回の実習で学んだ知識・技能について書いてください
- b) 医師としての姿勢について自分が気づいたことを書いてください
- c) 当初立てた学修目標（上記）の達成度はどのくらいですか？
- d) この臨床実習で気づいた自分自身の課題及びその克服に向けた自己学習計画を書いてみましょう

指導医のサイン \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

### 診療科終了時の指導医による評価

診療科終了時、教員の先生方に実習の評価をしてもらいます。 ※教員の先生方へ：学修契約で学生が自ら立てた学修目標を参考に、学生の評価をお願いいたします。この学生が将来立派な医師になり、一人で患者を診察するようになることをイメージしていただき、是非建設的なご意見をお願いいたします。

診療科 \_\_\_\_\_ 科

個別の学修目標設定（学修契約）で記入した臨床実習における学修目標

（学生が記入）

1.

2.

3.

1) 臨床実習期間中のこの学生の行動について、上記の学修目標を基に、よかった点をあげてください。

2) 臨床実習期間中のこの学生の行動について、上記の学修目標を基に、改善したほうがよいと感じた点をあげてください。

3) その他、気づいたことがあれば自由に記載してください。

日時 \_\_\_\_\_

指導医のサイン \_\_\_\_\_



## Appendix

### 学生を信頼し任せられる役割 (EPAs)

#### EPA とは？

資質・能力には抽象的な資質・能力や学修目標は時に抽象的であるため、臨床現場で学生や研修医を評価する際にイメージしにくいことがしばしばある。そのため、学習者に業務をどの程度任せられるかということを通して臨床現場での学習者の資質・能力を評価する「任せられる業務(EPAs: Entrustable professional activities)」という考え方がある(Moloughney, Moore, Dagnone, & Strong, 2017)。臨床現場での実践と学修目標をつなぐ概念として様々な国で導入されている(Peters, Holzhausen, Boscardin, Ten Cate, & Chen, 2017)。以下では臨床実習において第2章学修目標をEPAを通して評価する考え方を紹介する。

#### EPA と資質・能力の対応

1つのEPAに複数の資質・能力が必要となることが多いため、EPAと資質・能力の対応は以下のような表として表わされる。

資質・能力	PR	GE	LL	RE	PS	IT	CS	CM	IP	SO
EPA (例)	プロフェッショナルリズム	総合的に患者・生活者を見る姿勢	生涯にわたって共に学ぶ姿勢	科学的探究	専門知識に基づいた問題解決能力	情報・科学技術を活かす能力	患者ケアのための診療技能	コミュニケーション能力	多職種連携能力	社会における医療の役割の理解
主治医意見書の下書き記載をする。		●			●				●	●
救急外来でトリアージを行う。	●						●	●		
術前カンファでプレゼンを行う。					●			●		
褥瘡の有無を確認する。	●						●	●	●	

#### EPA のレベル

EPAは以下の5段階のレベルで評価する(Ten Cate 2014)。知識・技能・態度などの面で十分に準備ができていると考えた学習者にその業務を任せてみて観察し、今後もその業務を任せられると考えられるかどうかを評価する(Peters 2017)。

- 1) 観察のみ
- 2) 同室で直接監視下で実施
- 3) 指導医が数分以内に来られる場で実施

- 4) 指導監視なしで実施
- 5) 他者を指導する

EPA フォーマット作成例

項目名	内容
業務名	救急外来でトリアージを行う。
説明	救急外来来院患者に簡単な情報聴取の上、所見をとって緊急度を判断し、記録・報告する。
主に必要となる資質・能力	<p>PR, CS, CM</p> <p>プロフェッショナルリズム, 患者ケアのための診療技能, コミュニケーション能力</p> <p>上記資質・能力の内でも特に重要となるもの</p> <p>PR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 患者を含めた他者に思いやりをもって接する。</li> <li><input type="checkbox"/> 礼儀正しく振る舞う。</li> </ul> <p>CS</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 全身の外観（体型、栄養、姿勢、歩行、顔貌、皮膚、発声）を評価できる。</li> <li><input type="checkbox"/> バイタルサイン（体温、脈拍、血圧、呼吸数、酸素飽和度）の測定ができる。</li> <li><input type="checkbox"/> バイタルサインや身体徴候から緊急性の高い状態にある患者を認識できる。</li> <li><input type="checkbox"/> 標準予防策（スタンダード・プリコーション）の必要性を説明し、実践できる。</li> </ul> <p>CM</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 言語的コミュニケーション技能を發揮して、良好な人間関係を築くことができる。</li> <li><input type="checkbox"/> 非言語的コミュニケーション（身だしなみ、視線、表情、ジェスチャー等）を意識できる。</li> <li><input type="checkbox"/> 患者や家族に敬意を持った言葉遣いや態度で接することができる。</li> <li><input type="checkbox"/> 対人関係に関わる心理的要因（陽性感情・陰性感情等）を認識しながらコミュニケーションをとることができる。</li> </ul>
評価を行うローテート(例)	救急外来(大学病院), 救急外来(A病院)
評価に用いるツール(例)	指導医評価票, 看護師からの評価票, 患者さんからの評価票, 学生ポートフォリオ
指導監視なしで実施のために必要とされる条件	患者さんに適切なコミュニケーションを取り、妥当な緊急性の判断ができる。緊急の際にはすぐに助けを呼ぶことができる。
上記に至るまでのトレーニング	トリアージに関する動画学習とプレテスト, 指導者のトリアージを見学し記録をする, 指導下にトリアージを行いフィードバックを受ける

EPA と EPA では表さない目標

EPA は有用であるものの、研修や実習におけるすべての目標を EPA のみで評価することは難しい (Tanaka, 2021)。EPA では表さない目標は、業務として任せられるようになることは目指さないもの

の、卒業までに習得しておくべきものが挙げられる。乳房の診察や直腸診など実演できることを目指す項目の習得をシミュレーションで評価する場合などが該当する。施設や診療科に合わせた EPA を定義して用いることが望ましい。

---

1. 学修・評価項目を含め、共用試験に関する最新の資料は以下から入手できる。公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構ホームページ(<https://www.cato.or.jp/>)<sup>◀</sup>

## 参考資料1「医学教育モデル・コア・カリキュラム」今回の改訂までの経緯

### 1. 過去の策定・改訂経過

- 平成13年 3月 「医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議」（高久史麿座長）において、医学・歯学に係る大学関係者自らによる検討を経て、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」及び「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」を策定。
- 平成19年12月 「医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力者会議」の報告を踏まえ、医学教育モデル・コア・カリキュラムおよび歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する恒久的な組織（連絡調整委員会・専門研究委員会）を設置し、当該委員会での検討を経て、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」及び「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」を改訂。
- 平成23年 3月 「医学教育カリキュラム検討会」（荒川正昭座長）及び「歯学教育の改善・充実に係る調査研究協力者会議」（江藤一洋座長）の提言を踏まえ、連絡調整委員会及び専門研究委員会における検討を経て、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」及び「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」を改訂。
- 平成29年 3月 連絡調整委員会及び専門研究委員会における検討を経て、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」及び「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」を改訂。

### 2. 今回の改訂経過

- 令和3年 8月18日 連絡調整委員会（第1回）
- ・令和2年度調査研究チームからの報告
  - ・委員からの意見
- 10月21日 連絡調整委員会（第2回）
- ・調査研究チームから改訂方針（案）提示
  - ・改訂方針（案）に関する議論
- 令和4年 5月11日 連絡調整委員会（第3回）
- ・調査研究チームからモデル・コア・カリキュラム（素案）提示
  - ・モデル・コア・カリキュラム（素案）に関する議論
- 7月13日 連絡調整委員会（第4回）
- ・モデル・コア・カリキュラム（案）提示
  - ・モデル・コア・カリキュラム（案）に関する議論

参考資料2 医学教育モデル・コア・カリキュラム及び歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する恒常的な組織の設置について

平成19年5月30日 設置  
平成22年6月9日 一部改正  
令和3年5月21日 一部改正  
高等教育局 長

1. 目的

医学教育モデル・コア・カリキュラム及び歯学教育モデル・コア・カリキュラム（以下「モデル・コア・カリキュラム」という。）の改訂に関する恒常的な組織を設置する。

2. 役割

- (1) 医師国家試験出題基準及び歯科医師国家試験出題基準の改正や法制度・名称等の変更に対応した、モデル・コア・カリキュラムの改訂
- (2) 学生への教育効果の検証等、モデル・コア・カリキュラムの検証・評価
- (3) モデル・コア・カリキュラムの改訂に必要な調査研究
- (4) モデル・コア・カリキュラムの関係機関への周知徹底、各大学の取組状況の検証等、モデル・コア・カリキュラムの活用に必要な事項
- (5) その他モデル・コア・カリキュラムの改訂に必要な事項

3. 設置組織の構成等

- (1) モデル・コア・カリキュラムの改訂等を決定する組織（モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会）を設置し、文部科学省が主催する。
- (2) (1)の委員会の構成は別紙のとおりとする。
- (3) 必要に応じ、調査研究等を分担させるため必要な組織を置くことができるものとする。
- (4) 必要に応じ、関係者からの意見等を聴くことができるものとする。

4. 委員

- (1) 委員については、医学教育又は歯学教育のカリキュラム、医師又は歯科医師の国家試験等について優れた識見を有する者、その他関係者のうちから委嘱する。
- (2) 委員の任期は、委嘱した日の属する会計年度の翌会計年度末までとする。
- (3) 必要に応じ委員を追加することができる。
- (4) 委員は再任されることができる。

5. その他

3の組織に関する庶務は、高等教育局医学教育課が処理する。

「モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会」委員名簿

伊藤 史恵	文部科学省高等教育局医学教育課長	(令和3年5月～)
江藤 一洋	歯学教育改善・充実に関する調査研究協力者会議座長	(令和3年5月～)
小川 彰	一般社団法人日本私立医科大学協会会長	(令和3年5月～)
釜菟 敏	公益社団法人日本医師会常任理事	(令和4年7月～)
北川 昌伸	前 国立大学医学部長会議常置委員会委員長	(令和3年5月～)
北村 聖	東京大学名誉教授	(令和3年5月～)
栗原 敏	公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構理事長	(令和3年5月～)
齊藤 延人	一般社団法人全国医学部長病院長会議医学教育委員会委員長	(令和3年5月～)
嶋田 昌彦	東京医科歯科大学名誉教授	(令和3年5月～)
○永井 良三	自治医科大学学長	(令和3年5月～)
奈良 信雄	一般社団法人日本医学教育評価機構常勤理事	(令和3年5月～)
羽鳥 裕	前 公益社団法人日本医師会常任理事	(令和3年5月～令和4年6月)
福井 次矢	東京医科大学茨城医療センター病院長	(令和3年5月～)
前田 健康	新潟大学歯学部長	(令和3年5月～)
俣木 志朗	日本歯科大学生命歯学部客員教授	(令和3年5月～)
三浦 廣行	一般社団法人日本私立歯科大学協会会長	(令和3年5月～)
南 砂	読売新聞東京本社常務取締役調査研究担当	(令和3年5月～)
門田 守人	日本医学会会長	(令和3年5月～)

柳川 忠廣 公益社団法人日本歯科医師会副会長  
(令和3年5月～)

山口 育子 認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長  
(令和3年5月～)

計20名

(オブザーバー)

井上 圭三 薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会座長  
(令和3年10月～)

小椋 正之 厚生労働省医政局歯科保健課長  
(令和3年10月～)

田口 円裕 前 厚生労働省医政局歯科保健課長  
(令和3年5月～令和3年9月)

山本 英紀 厚生労働省医政局医事課長  
(令和3年5月～)

計4名

※敬称略、五十音順  
○：委員長  
括弧：委員等就任期間  
令和4年7月1日現在

参考資料3 略語集

略語	名称／用語	和訳
A		
A-aD02	Alveolar-arterial oxygen difference	肺泡気-動脈血酸素分圧較差
ACP	Advance care planning	アドバンスケア計画
ADHD	Attention deficit hyperactivity disorder	注意・欠如多動症
ADL	Activities of daily living	日常生活動作
AFP	Alpha-fetoprotein	アルファフェトプロテイン
AI	Artificial intelligence	人工知能
AIDS	Acquired immunodeficiency syndrome	後天性免疫不全症候群
AKI	Acute kidney injury	急性腎障害
AR	Augmented reality	拡張現実
ARDS	Acute respiratory distress syndrome	急性呼吸促迫症候群
ASD	Autism spectrum disorder	自閉症スペクトラム症
AYA	Adolescent and young adult	思春期・若年成人
B		
BPRS	Brief psychiatric rating scale	簡易精神症状評価尺度
BYOD	Bring your own device	私物利用
CA19-9	Carbohydrate antigen 19-9	
C		
CbD	Case based discussion	事例を基にした学修
CBT	Computer based training	コンピューターを用いた客観試験
CC-EPOC	Clinical clerkship e-portfolio of clinical training	オンライン臨床教育評価システム

CEA	Carcinoembryonic antigen	癌胎児性抗原
CKD	Chronic kidney disease	慢性腎臓病
CMS	Course management system	コース管理システム
COPD	Chronic obstructive pulmonary disease	慢性閉塞性肺疾患
CPC	Clinico-pathological conference	臨床病理検討会
CT	Computed tomography	コンピュータ断層撮影
D		
DIC	Disseminated intravascular coagulation	播種性血管内凝固
DIHS	Drug-induced hypersensitivity syndrome	薬剤性過敏症症候群
DNA	Deoxyribonucleic acid	デオキシリボ核酸
DOPS	Direct observation of procedural skills	直接観察による臨床手技の評価
E		
EBM	Evidence-based medicine	根拠に基づく医療
F		
FD	Faculty development	ファカルティ・ディベロップメント
FD	Functional dyspepsia	機能性ディスぺプシア
FSH	Follicle-stimulating hormone	卵胞刺激ホルモン
G		
G-CSF	Granulocyte colony stimulating factor	顆粒球コロニー刺激因子
GERD	Gastroesophageal reflux disease	胃食道逆流症
GVHD	Graft versus host disease	移植片対宿主病
H		
HBV	Hepatitis B virus	B型肝炎ウイルス
hCG	Human chorionic gonadotropin	ヒト絨毛性ゴナドトロピン

HCV	Hepatitis C virus	C型肝炎ウイルス
HIV	Human immunodeficiency virus	ヒト免疫不全ウイルス
HSG	Hysterosalpingography	子宮卵管造影
HTLV-1	Human T-lymphotropic virus type 1	ヒトT細胞白血病ウイルス
HUS	Hemolytic uremic syndrome	溶血性尿毒症症候群
I		
ICD	International statistical classification of diseases and related health problems	疾病及び関連保健問題の国際統計分類
ICF	International classification of functioning, disability and health	国際生活機能分類
ICT	Infection control team	感染制御チーム
ICT	Information and communication technology	情報科学技術
IoT	Internet of things	
ITP	Immune thrombocytopenia	免疫性血小板減少性症
IVF-ET	In vitro fertilization embryo transfer	体外受精胚移植
J		
JIA	Juvenile idiopathic arthritis	若年性特発性関節炎
L		
LGBTQ	Lesbian, gay, bisexual, transgender, questioning	
LH	Luteinizing hormone	黄体形成ホルモン
LMS	Learning management system	学習管理システム
M		
M&M	Mortality & morbidity	
MCQ	Multiple choice question	多肢選択式問題

mini-CEX	Mini-clinical evaluation exercise	簡易版臨床能力評価
MMSE	Mini-mental state examination	精神状態短時間検査
MR	Mixed reality	複合現実
MRI	Magnetic resonance imaging	磁気共鳴画像
0		
Off-JT	Off-the-job training	実務と離れて行う学修
OJT	On-the-job training	実務経験を通じた学修
OSCE	Objective structured clinical examination	客観的臨床能力試験
P		
PAL	Peer assisted learning	同僚支援学習
PBL	Problem-based learning	問題基盤型学習
PCCM	Patient centered clinical method	患者中心の医療の方法
PECO	Patient, population, problem, exposure, comparison, outcome	
PET	Positron emission tomography	ポジトロン断層撮影法
PI	Principal investigator	研究主宰者
PICO	Patient, population, problem, intervention, comparison, outcome	
PIVKA-II	Protein induced by vitamin K absence or antagonist II	
PUVA therapy	Psoralen with ultraviolet a therapy	ソラレン紫外線療法
Q		
QOL	Quality of life	クオリティ・オブ・ライフ
R		
RNA	Ribonucleic acid	リボ核酸

ROC	Receiver operating characteristic	受信者操作特性
S		
SD	Staff development	スタッフ・ディベロップメント
SDH	Social determinants of health	健康の社会的決定要因
SEA	Significant event analysis	有意事象分析
STADH	Syndrome of inappropriate ADH secretion	抗利尿ホルモン不適切分泌症候群
SIDS	Sudden infant death syndrome	乳児突然死症候群
SLE	Systemic lupus erythematosus	全身性エリテマトーデス
SNS	Social networking service	ソーシャル・ネットワーキング・サービス
SOAP	Subjective, objective, assessment, plan	主観的所見・客観的所見・評価・計画
STAI	State-trait anxiety inventory	状態特性不安検査
T		
TBL	Team-based learning	チーム基盤型学習
TEN	Toxic epidermal necrolysis	中毒性表皮壊死症
Th cell	Helper T cell	ヘルパーT細胞
TORCH	Toxoplasma gondii, others, treponema pallidum, rubella virus, cytomegalovirus, and herpes simplex virus	周産期領域における先天性感染症
U		
UHC	Universal health coverage	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ
V		
VLE	Virtual learning environment	仮想学習環境
VR	Virtual reality	仮想現実

W		
WPBA	Workplace-based assessment	観察評価
WPW syndrome	Wolff-Parkinson-White syndrome	ウォルフ・パーキンソン・ホワイト症候群